

事故を防ぐために

① 施設や遊具の掲示を確認！！

屋内遊戯施設を利用する場合は、施設や遊具の掲示に従い、適切な方法で利用しましょう。また、保護者はできる限り子どもから目を離さないようにしましょう。



② けがをしたらすぐ施設の管理者へ連絡！！

屋内遊戯施設を利用中にけが等の事故が発生した場合には、その後のトラブルを防ぐためにも、周囲の保護者等は直ちに施設の管理者に事故の発生を知らせましょう。また、症状にもよりますが、速やかに医療機関を受診し、医師の診察を受けた方が良いでしょう。



●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、

被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2014年1月発行

イラスト=川崎 敏郎

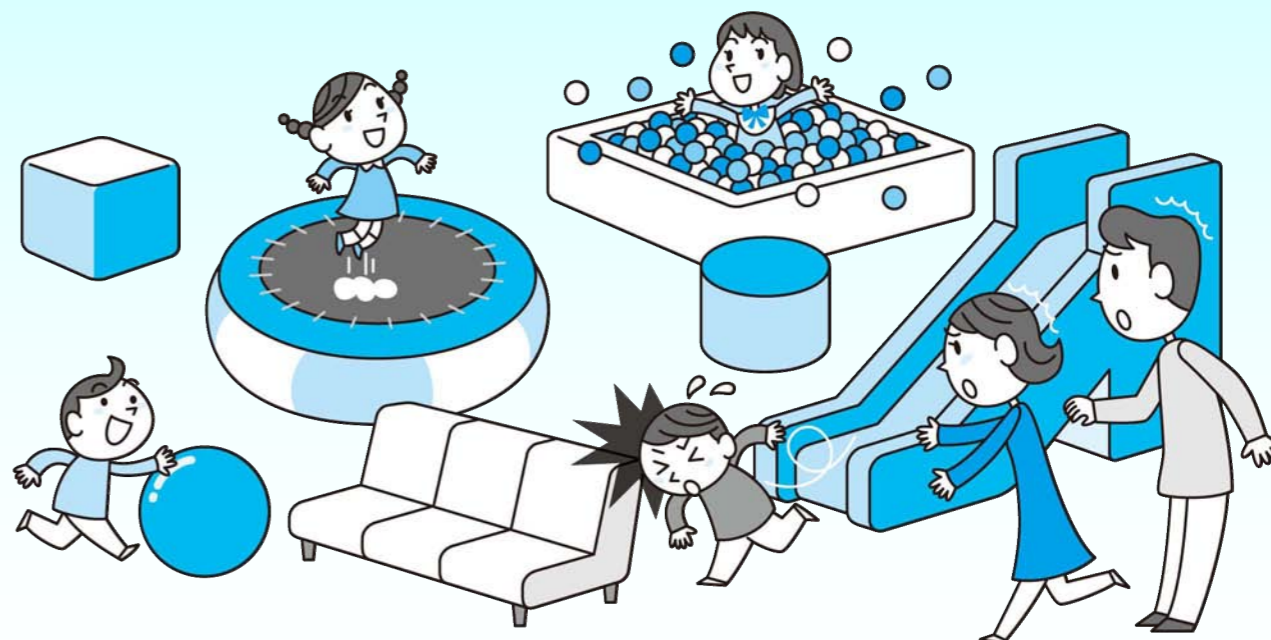
くらしの危険 Number 316

商業施設内の 屋内遊戯施設における子どもの事故

商業施設の屋内で、滑り台やボールプールなど子どもが身体を動かして遊ぶことができる遊具が設置された施設（屋内遊戯施設）が人気です。

一方で、屋内遊戯施設で危害が発生したという情報が寄せられており、骨折など治療に長期間を要した事例もみられます。

屋内遊戯施設を利用する場合は、施設や遊具の掲示に従い、適切な方法で利用しましょう。また、保護者はできる限り子どもから目を離さないようにしましょう。



こんな事故が起きています

ケース 1 ジャンピング遊具

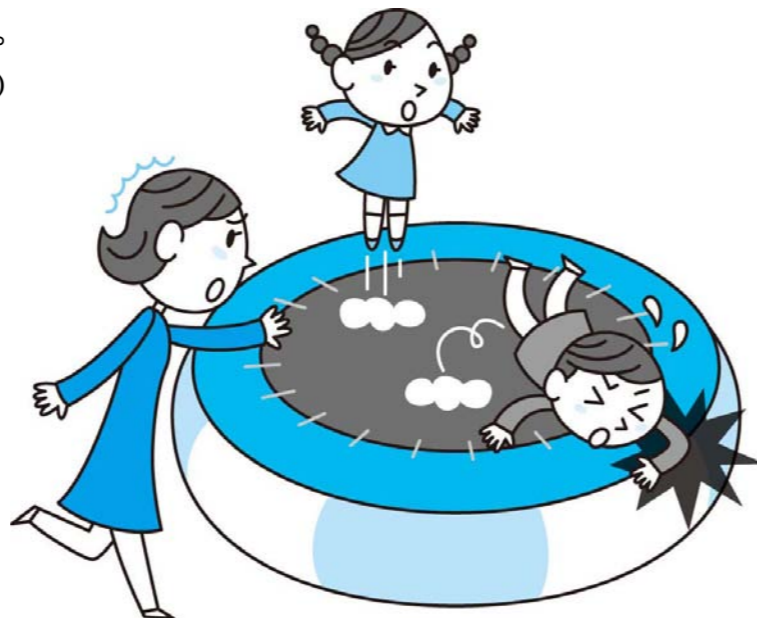
商業施設の中にあるキッズ用遊技場にある有料ジャンピング遊具で子どもを遊ばせていた。遊んでいるうちにジャンピング遊具の端の硬い部分に左肘をぶつけ、激しく泣いたので救急車を呼び病院で診察を受けたところ骨折しており、全治7週間と診断された。

(5歳、男児)

ケース 2 滑り台

大型ショッピングセンターのプレイルーム内に設置してある滑り台から走り下り、そのまま滑り台の前に置いてあったソファに額を打ち、救急搬送された。

(3歳、男児)



屋内遊戯施設の利用に関するアンケートより

屋内遊戯施設の利用経験がある12歳以下の子どもを持つ保護者を対象に、屋内遊戯施設の利用に関するアンケート調査を実施しました。(回答者500名)

- 屋内遊戯施設は、利便性や安全性が高いとのイメージから、子どもが身体を動かして遊ぶことのできる場所の一つとして保護者に認知されていました。
- 回答者の約14%は、屋内遊戯施設で子どもがけがをした、あるいはけがをしそうになった経験がありました。
- 利用している施設で従業員から受けた説明や掲示の内容について尋ねたところ、安全な利用にかかわる注意事項の説明や掲示を認識していない保護者が半数以上でした。また、従業員が遊びの見守りを行っている施設でも事故は発生していました。

ケース 3 ジャングルジム

父が孫である7歳の息子と5歳の娘を連れてスーパー内にある有料の遊び場へ連れて行った。場内になる巨大ジャングルジムの骨組みと思われるパイプ状の物にぶら下がって遊んでいるうち、7歳の息子が落下し、右ひじを骨折した。父はその場をみていなかった。病院で全治3カ月と診断された。

(7歳、男児)

ケース 4 ボールプール

ショッピングセンター内にある、身長120センチ以下の子どものみ利用できる施設にあるボールプールで遊んでいた。子どもが上部から飛び降りたところ、ボールに隠れたところに階段があり、階段に額をぶつけ、4針縫うけがをした。

(5歳、女児)



ケース 5 その他の遊具

大型ショッピングセンター内にある有料の遊園地で5歳の息子を遊ばせていた。網状になっているトンネルのような遊具で遊んでいたところ、突然大きな泣き声をしたため息子を見ると、口を血だらけにしてうずくまっていた。歯医者に連れて行ったところ「前歯4本がグラグラになっているので抜歯した方がいい」と言われ、抜歯した。

(5歳、男児)

けがをした事例は3歳から6歳の子どもに多い

屋内遊戯施設での子どもがけがをしたという事故情報を分類すると、3歳から6歳が多く、特に5歳の子どもに最も多く、危害の症状は「骨折」が最も多く、けがをした部位は、「顔面」や「脚」が最も多くみられました。